資料３

都立高校の
魅力向上等に係る懇談会
（第５回）

令和８年11月９日

1 専門部会における検討状況の報告

○ グローバル化やデジタル化等に対応できる人材づくりについて（第一部会）

○ 多様な生徒を確実に支えるしくみづくりについて（第二部会）

○ 将来の東京を担う人材を生み出す都立高校づくりについて（第三部会）

2 都立高校の魅力向上等について

○ 今後の都立高校に求められる学びと役割について

- これからの社会を生きる力について
- 誰一人取り残さない自立・社会参画について

専門部会（第一部会）における議論の経過と主な意見等

分野	区分	第1回		第2回	
情報教育（デジタル）	説明事項・論点 等	主な説明事項	AI・デジタル技術の進展やデジタル人材をめぐる社会状況、国の検討状況、情報Ⅰ・Ⅱの内容、都立高校における情報教育の取組　等	主な説明事項	AI・デジタルをめぐる社会状況、国の検討状況、都立高校及び他自治体における情報教育の取組、高校段階と大学段階の学びの接続
		主な論点	生成AI時代における情報教育の在り方、社会課題の解決につながる学習内容・学習環境、大学・企業等との連携、高度な情報教育を行う学校の在り方	主な論点	社会課題の解決や価値創造を担う人材の育成に必要な教育内容・学び方、大学・企業等との連携体制、高度な情報教育を提供する学校の形態・規模
	委員からの主な意見	・単なるプログラミング学習ではなく、**課題発見から設計、制作、検証、改善**までを含む学びが必要。 ・知識や技能の習得だけでなく、課題解決に向けた**試行錯誤や改善のサイクルを繰り返し経験**することが重要。 ・発展的・専門的な情報教育には、大学・企業等との継続的な連携や、連携を支えるコーディネート機能など、**学校外の人材を活用する体制**が必要。　等		・**課題解決型学習**は、企画・発表にとどまらず、実際に制作・実装し、フィードバックを受け、改善するまでを経験することが重要。 ・高校3年間を通じて課題解決型学習を**複数回経験**し、**実社会性・専門性・自律性などを段階的に高めていく**ことが必要。 ・大学・企業等の**外部人材による伴走やコーディネート体制**を整えるとともに、**学校の形態・規模**や、情報分野の学びと**大学進学に必要な学習との両立**などを検討することが必要。　等	
グローバル	説明事項・論点 等			主な説明事項	都のグローバル人材育成の方向性、段階的な育成イメージ（基盤となる英語力の育成、国内での実践力強化、海外での実地体験）、段階ごとの都の取組例、都立高校生・教員の英語力の現状、令和7年度の専門部会の議論の報告、都立高校の特色ある国際教育
				主な論点	生徒の海外への関心や挑戦意欲の醸成・向上方法、国際感覚や語学力を養うための実践的な学びの仕組み、海外での実践的な体験の実施方法
	委員からの主な意見			・自身の**関心分野をきっかけ**として、**自身の専門性**に基づき**必然的な形で英語を使う**ことで、グローバルな視点で課題設定・解決する力が養われる。 ・海外大学など、**国内外で国際交流の機会**を創出することも重要。 ・AIや外部人材など、**具体的課題に特化した英語学習が進む支援**も効果的。 ・**プロジェクト型の経験**は、語学力の真の必要性に気づけるので重要。 ・**語学だけで完結するものではなく**、世界の歴史、政治経済等を理解・考察することも有効。 ・海外留学経験格差の実態等を把握し、**目的を分けた支援が必要。** 等	

専門部会（第一部会）における取りまとめ内容

分野	第3回
情報教育（デジタル）	**【高度な学力・幅広い教養と情報分野の専門的な学びを基盤に、課題解決に実践的に取り組む高度情報活用コースの設置に向けた検討の方向性】** ■ 情報技術を活用して新たな価値を創造する人材の育成に向け、東京の多様な教育資源を生かした学びを高校段階から充実 ■ 全ての生徒の情報活用能力を育成するとともに、**高い関心・意欲を持つ生徒が、より発展的・専門的な学びに挑戦できる機会を確保する必要**があり、本専門部会では、こうした検討を踏まえ、関心・意欲の高い生徒への発展的・専門的な情報教育の在り方を検討 ■ 高度な学力・幅広い教養と情報分野の専門的な学びを基盤に、多様な知識や視点を組み合わせながら、社会課題を的確に捉え、情報技術を活用して解決策を構想するとともに、その結果を検証・改善するなど、**課題解決に実践的に取り組む高度情報活用コースの設置を検討** ■ 多様な主体との連携の下、課題の発見・設定から実装・検証・改善までを繰り返しながら、基礎・試行から実践・発展、探究・自律へと、3年間を通じて実社会性・専門性・自律性を段階的に高める学びを展開
グローバル	**【幅広い生徒の関心・挑戦意欲の醸成や、さらに挑戦したい生徒に対するより高度な体験につながる支援など、目的に応じた機会の充実の方向性】** ■「学ぶ→試す→経験する（課題が分かる）」という各段階の取組を充実させて**高校段階で学びの好循環を促進**しながら、**卒業後の継続的な学び・活躍への接続も意識** ■ AI技術の進展等も踏まえ、生徒の**学習上の課題に応じて学びを後押し**できる学習環境を整備し、英語を使用する時間や機会を充実 ■ コミュニケーション能力や課題を解決する力を養い、国内外問わず活躍できる素地を育成しつつ、国際交流等の国内での実践の機会も充実し、さらに**興味関心に応じて選択できる海外派遣の機会**も充実 ■ 海外大学への進学を見据えた生徒に、情報提供体制や英語力向上、出願準備への支援、奨学金等の活用、海外大学との連携により、**さらに挑戦したい生徒が希望する進路実現を後押し**

専門部会（第二部会）における議論の経過と主な意見等

分野	整理項目	第1回		第2回	
不登校・中途退学対策	説明事項・論点 等	主な説明事項	都立高校における不登校や中途退学の現状、チャレンジスクールの取組状況	主な説明事項	不登校の背景、都立高校の主な相談体制、校内別室指導や居場所カフェ等の取組、チャレンジスクールの現場の声
		主な論点	チャレンジスクール等における学びや支援、環境の充実の方向性	主な論点	多様化する背景を踏まえた支援機能、学校だけでは対応が難しい課題への対応、登校継続に向けた学習・通学スタイルの充実方法
	委員からの主な意見	・毎日登校することが難しい場合の別の手だてなど、様々な困りごとへの対応が重要。 ・チャレンジスクール等に通う生徒の自立には、**学校と地域等の連携が重要。**　等		・不登校やその経験を持つ生徒に対しては、**オンライン授業、別室指導、校内の居場所等を、生徒の状況に応じて段階的・計画的に組み合わせることが重要。** ・医療機関への受診勧奨だけで終わらせず、**学校での生徒の様子や学校環境を共有しながら、継続的・対話的に連携**することが必要。　等	
多様な困難を抱える生徒への対応	説明事項・論点 等	主な説明事項	エンカレッジスクールや定時制の取組状況	主な説明事項	都立高校における発達障害、障害のある生徒、ヤングケアラー等の現状や支援の取組、エンカレッジスクールや定時制の現場の声
		主な論点	エンカレッジスクールにおける学び直しの仕組みや進路支援の充実の方向性、定時制の役割の変化を踏まえた充実の方向性	主な論点	多様な背景を抱える生徒に提供すべき学びや支援機能、将来の社会的自立に向けて必要なキャリア教育や就労支援
	委員からの主な意見	・学び直しの在り方については、**発達障害等により読み書きの学習が著しく難しい生徒等の存在**も踏まえた検討が必要。 ・高校1年生や2年生段階から**企業と組んだインターン**などが授業に組み込まれていくと、就職に直結するとともに、離職の抑制にもつながる。　等		・多様な生徒を支える学校においては、**「働く力」「生活する力」「人と関わる力」の育成**につながる学校設定科目を設けるなど、**生徒の興味・関心や将来の自立につながる教育課程を工夫**することが必要。 ・将来の**社会的自立**に向け、**企業や地域等と連携した体験的な学びやインターンシップ、就労支援を早期から充実させることが重要。**　等	
通信制ニーズへの対応	説明事項・論点 等	主な説明事項	都立通信制における取組状況や国の動向	主な説明事項	通信制ニーズの高まり、通信制を選択する生徒の状況、私立を含めたスクーリングの状況、都立通信制における近年の取組や現場の声
		主な論点	私立通信制の取組が進む中、都立通信制としての充実の方向性	主な論点	都立通信制の役割、スクーリングや対面での学び、交流機会、体験機会等の充実の方向性
	委員からの主な意見	・通信制では**体験機会**が不足しやすく、体験型学習を積んでいく機会の創出が重要。 ・都立通信制としては、**スクーリングや学校の中でできる支援**をしっかりと生徒に提供していくことが必要。　等		・中学校等で不登校を経験し、学校行事等を十分に経験できなかった生徒もいることを踏まえ、**学校行事を含む交流・体験活動を充実**させることが重要。 ・登校・スクーリングを希望する生徒のニーズを踏まえ、**対面での学びや交流、体験等を含む都立通信制の機能を充実**させることが必要。　等	

専門部会（第二部会）における取りまとめ内容

分野	第3回
不登校・中途退学対策	**【複雑化する不登校の背景に応じた支援機能の充実に向けた方向性】** ■ 生徒が抱える課題の中には、家庭環境、生活上の課題、心理・健康面等、学校内の教育・支援だけでは対応が難しく、福祉・医療、地域の支援機関等との連携が必要なものも存在することを踏まえ、不登校経験等のある生徒を主に受け入れるチャレンジスクールにおいて、**学校と福祉・医療、地域の支援機関等とをつなぎ、継続して生徒を支える機能を強化** ■ 今後は、学校が医療・福祉、地域の支援機関等と継続的に情報共有や意見交換を行い、それぞれの専門性を生かした関わりを得ながら、個々の生徒に応じた必要な支援を実現していくことができる**連携の仕組みの具体的な在り方を検討** ■ さらに、不登校経験等のある生徒の背景や状態の一層の多様化を踏まえ、**居場所、学び方・通い方の柔軟性を含め、チャレンジスクール等に求められる役割や学校の在り方について、更に検討を深化**
多様な困難を抱える生徒への対応	**【多様な困難を抱える生徒の社会的自立を後押しする支援の充実に向けた方向性】** ■ 卒業後の進学や就労、定着までを見据え、生徒一人一人の主体性や自己理解を育みながら、自らの強みや可能性を生かし、高校段階から社会につながる力を育むため、**地域・企業等との関わりや体験を通じたキャリア教育・就労支援を充実** ■ 今後は、生徒の将来的な社会的自立を見据え、民間団体等の外部機関とも連携しつつ、生徒の就職から職場定着までを支えていく**キャリア教育・就労支援の具体的な在り方を検討** ■ さらに、多様な困難を抱える生徒が、将来、働き、生活していくために必要な力をいかにして育み、社会の中で自分らしく活躍していくことにつなげていくかということや、**エンカレッジスクールや昼夜間定時制等に求められる役割・在り方について更に検討**
通信制ニーズへの対応	**【多様な学習ニーズに応える都立通信制の充実に向けた方向性】** ■ 通信制を選択する生徒のニーズが、柔軟な学びに加え、人との交流や学校行事、体験活動、社会とのつながり等にも広がっていることを踏まえ、生徒の状況に応じて段階的に参加できるよう配慮しながら、**人や社会との交流や多様な体験につながる機会を充実** ■ さらに、通信制に対する多様なニーズを踏まえ、**都立学校として確保すべき通学・対面学習、交流・体験、相談支援等の機能について、更に検討を深化**するとともに、**チャレンジスクール、定時制等の既存他校種が担うセーフティネット機能との関係も踏まえ、都立通信制の在り方について検討**

専門部会（第三部会）における議論の経過と主な意見等

分野	区分	第1回		第2回	
産業教育	説明事項・論点 等	主な説明事項	AI等による産業構造の変化と、専門学科の教育内容・応募・進路状況	主な説明事項	産業構造や社会の変化等を踏まえた今後の産業教育に必要な視点、分野横断の学びの必要性・展開イメージ、実習環境の課題
		主な論点	社会状況を踏まえた産業人材の在り方や学びの内容、産業界・地域等との連携の在り方	主な論点	分野横断の学びの具体化と、それを支える教員・外部人材の活用及び実習環境の確保・整備
	委員からの主な意見	・短期的な需要に限らず、**未知の課題や産業にも対応できる人材**を育成する視点が重要。 ・**従来の産業区分に捉われず、生徒の関心を起点に分野横断的に学ぶことが必要。** ・農業や工業について、**最先端の産業の姿**を生徒に伝えていく必要。 ・**生徒が地域住民・企業等と関わり、販売・企画・探究等に取り組む場**が有効。等		・**生徒が関心を持つ課題を起点**に、**課題解決を通じて各分野の知識・技術の必要性を理解**する学びが必要。 ・学校間で**学びを組み替えられる仕組み**や、**多様な体験を通じて自ら学びを選択できる教育環境**が必要。 ・**農業・工業・商業の学校が近接する都立高校の強み**を生かし、**既存施設を活用**した上で、テーマ別の学校群を形成することが考えられる。等	
高大連携	説明事項・論点 等			主な説明事項	高大連携の目的や各大学との連携内容の紹介、更なる高大連携が求められる背景等
				主な論点	大学との連携による生徒の学び・学習環境の充実及び教員の指導力向上
	委員からの主な意見			・**進路選択前の早い段階**から、**探究の問いに出会う場として大学を活用**することが考えられる。 ・**高校生の探究テーマと大学の研究を結ぶ**ことで、**探究の深化と、大学が意欲ある高校生と出会う機会の創出**につなげられるのではないか。 ・**高校・大学の教員交流を通じて相互理解を促進**していくことが重要。等	
部活動	説明事項・論点 等			主な説明事項	都立高校における部活動の現状とプレミアクラブへの重点的支援の内容
				主な論点	魅力・活動水準の向上、指導の充実、安心して参加できる支援
	委員からの主な意見			・**プレミアクラブの取組は推進していくべき**であり、**施設や備品等への支援が活動に役立つ**と考える。 ・**指導体制の充実**や、**生徒が安心して活動できるための支援も重要**ではないか。等	

専門部会（第三部会）における取りまとめ内容

分野	第3回
産業教育	**【分野横断の産業教育における新たな学びと学習環境、専門教育の充実の方向性】** ■ 分野横断の産業教育を実現するため、所属学科を起点に学びを進めるのではなく、**解決したい課題を起点に必要な科目を学ぶ環境を整備**することで、「**多様な知識・技能を組み合わせて課題を解決する力**」を**育成** ■ **生徒が究めたいと考える専門分野の学びを充実しつつ、産業分野をシームレスにつなぐ産業融合型の学びへと発展**させ、**複数の分野の知識・技能を組み合わせた価値創造に生徒が取り組める学校の在り方を検討** ■ 分野横断の産業教育では、分野ごとに異なる実習環境の確保が必要であり、**実習の内容に応じて学習場所を変える「実習環境のネットワーク化」を検討** ■ 分野横断の産業教育のほか、**各専門領域を取り巻く社会状況の変化に対応**するため、**各専門高校における農業教育・工業教育の充実・強化**や、**各産業分野との連携による商業教育の充実**など、**実社会の課題解決に資する力を育成** ■ 今後は、先行校での試行やSTEAM型の学び、学校・テーマを超えた生徒間交流などの視点も踏まえ、取組の内容を検討・具体化
高大連携	**【高大連携の充実・強化と都立大学との連携深化】** ■ **大学における研究活動や研究時間の確保にも配慮**した上で、**大学の専門性を生かした学びの一層の充実・深化を検討** ■ 次代の東京を担う人材を一貫性を持って育成する観点から、**都の政策形成を支えるシンクタンク機能を担う都立大学において、探究・研究体験や教員支援の充実、大学施設の活用などによる高校と大学の交流の検討、近接する八王子東高校との緊密な連携**などの取組を通じ、**連携を一層深化** ■ 今後は、教員自身の継続的な学びによる指導力向上や、高校・大学双方のニーズや実情に応じたコーディネート機能などの視点も踏まえ、取組の内容を検討・具体化
部活動	**【部活動の魅力向上に向けた環境整備】** ■ 競技バランス等を踏まえた**プレミアクラブの指定拡大、国内外の実践に学ぶ指導力向上、安心して活動できる環境づくりを展開** ■ 今後は、教員の負担軽減との両立や、生徒が多様な活動から自ら選択できる環境などの視点も踏まえ、取組の内容を検討・具体化

三つの専門部会を横断する共通テーマ

□ 三つの専門部会における検討を踏まえ、**個別の分野を超えて、今後の都立高校全体の観点から議論すべき共通のテーマ・論点を整理**

第一部会
（情報・グローバル分野の学び）



- ✓ 課題発見から実装・検証・改善の反復
- ✓ 関心を起点とした実践的な学び
- ✓ 大学・企業等との連携

第二部会
（多様な生徒を支える学びと支援）



- ✓ 個に応じた学び・支援
- ✓ 地域・企業等の体験的な学び
- ✓ 自立・進路・卒業後への接続

第三部会
（産業・大学・地域とつながる学び）



- ✓ 分野横断の学びを通じた価値創造
- ✓ 社会課題を起点とした探究活動
- ✓ 学校・大学・地域・企業との連携

三つの専門部会を横断する共通テーマ



探究・分野横断の学び



一人ひとりに応じた学び・支援



社会との接続・自立

これらの共通テーマ・論点について、都立高校を取り巻く状況も踏まえ、都立高校全体の視点から議論

探究・分野横断の学び

複雑化・高度化する社会課題と求められる人材

□ 東京には、**大企業、情報通信業、スタートアップ、大学**等が全国のなかでも**高い割合**で**集積**しており、**イノベーション創出を担う人材への需要が特に高い**状況

大企業の集積状況

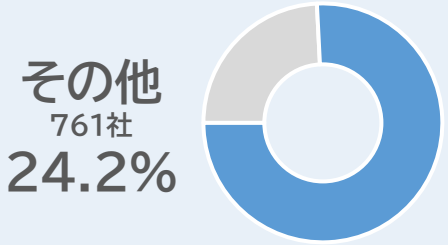
国内資本金10億円以上の大企業数（全国5,740社）



出典：東京都「令和3年経済センサス-活動調査報告（産業横断的集計東京都概況）」から作成

東京への外資系企業の集積状況

外資系企業の本社所在都道府県別構成比（全国3,140社）



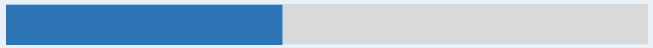
出典：東京都「東京の産業と雇用就業2026」から作成

情報通信業　会社企業数

約2.3万社

全国の約43%

※日本標準産業分類上の区分

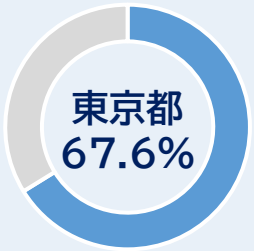


東京 43.2%　　その他 56.8%

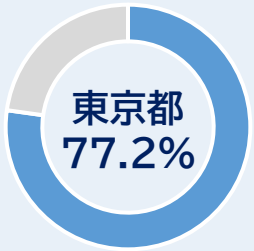
出典：東京都「令和3年経済センサス-活動調査報告（産業横断的集計東京都概況）」から作成

スタートアップ企業の集積状況

スタートアップの立地割合（社数ベース）



スタートアップの資金調達額割合（金額ベース）



出典：内閣官房「スタートアップ総力創出パッケージ」（令和8年5月）から作成

大学

大学数 ▶ **143校**
全国の約18%

出典：文部科学省　学校基本調査（令和7年度）

情報系学部を持つ大学数 ▶ **45校**
全国の約22%

出典：ナレッジステーション（https://www.gakkou.net/）情報（コンピュータ系）ページ参照（参照日：令和8年8月31日）

社会課題が複雑化・高度化する中、高度な専門性に加えて、文理を越えた幅広い知識・教養を備え、多様な知識や考え方を結び付けながら、探究的に課題解決や新たな価値の創出に取り組む力が必要

探究・分野横断の学び

都立高校における探究的な学びの充実

□ 東京都教育委員会では、**全ての都立高校等を対象**として、**生徒個人や学校単位**による取組、**年間・短期のプログラム、企業・大学等との連携による探究活動**など、**多様な学びの機会を展開し、各校の特色を生かした探究的な学びの更なる充実・深化を推進**

□ また、**各校が学習の成果を広く発信し、都立高校同士で成果を共有して探究学習の深化を図り、「チーム都立」として都立高校全体の魅力と価値を一層高めるため、「TIPS Forum（ティップス・フォーラム）」を開催**

都立高校における探究活動の取組（昨年度のTIPS Forumの様子）

メインステージ

代表発表
代表校の生徒が取り組んだ探究活動についてプレゼンテーション

パネルディスカッション
代表生徒とゲストが、学びと将来の結びつきや探究の魅力について意見交換

著名ゲストによるトークセッション

生徒による学び合い

ポスターセッション
各校による探究の成果をまとめたポスターを掲示するとともに、ポスターの前で生徒が発表するポスターセッションを多数実施

プレゼンテーション発表
複数のプレゼンテーションステージを設け、東京都教育委員会の実施する事業や様々な取組を通じて学んだことを生徒が発表



代表校発表


ポスターセッション

展示ブース

東京都教育委員会ブース
東京都教育委員会の事業について紹介

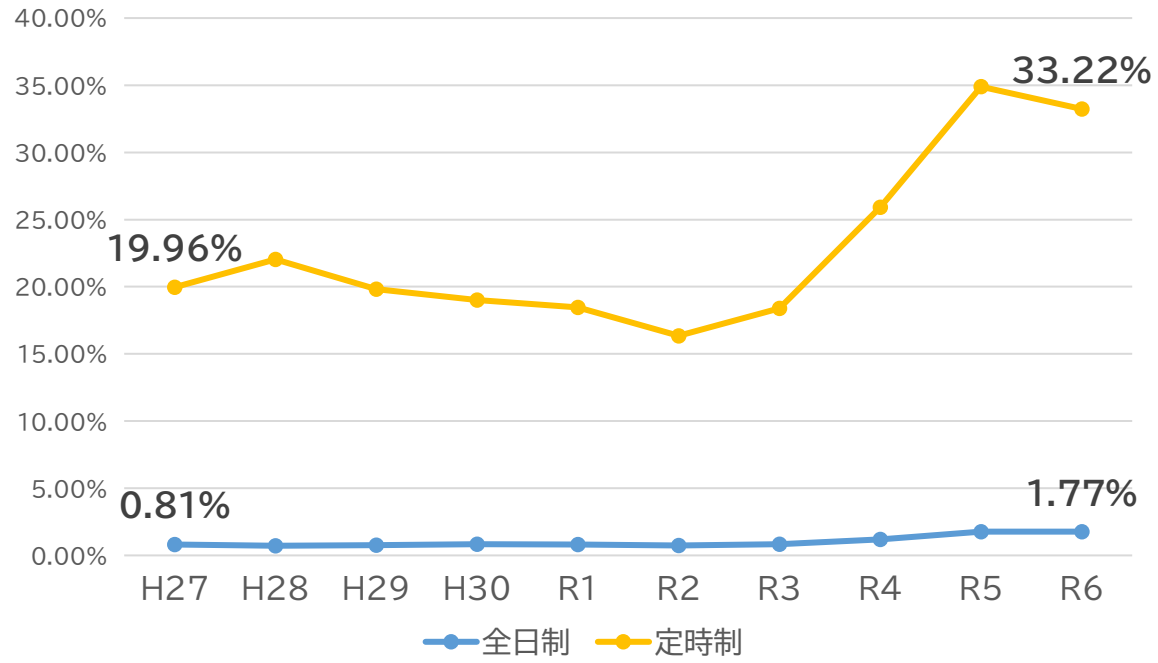
特色ある取組ブース
生徒が作成したプログラミングを体験できるエリアを設置

一人ひとりに
応じた学び・支援

多様化する生徒の一人ひとりの状況や学びのあり方

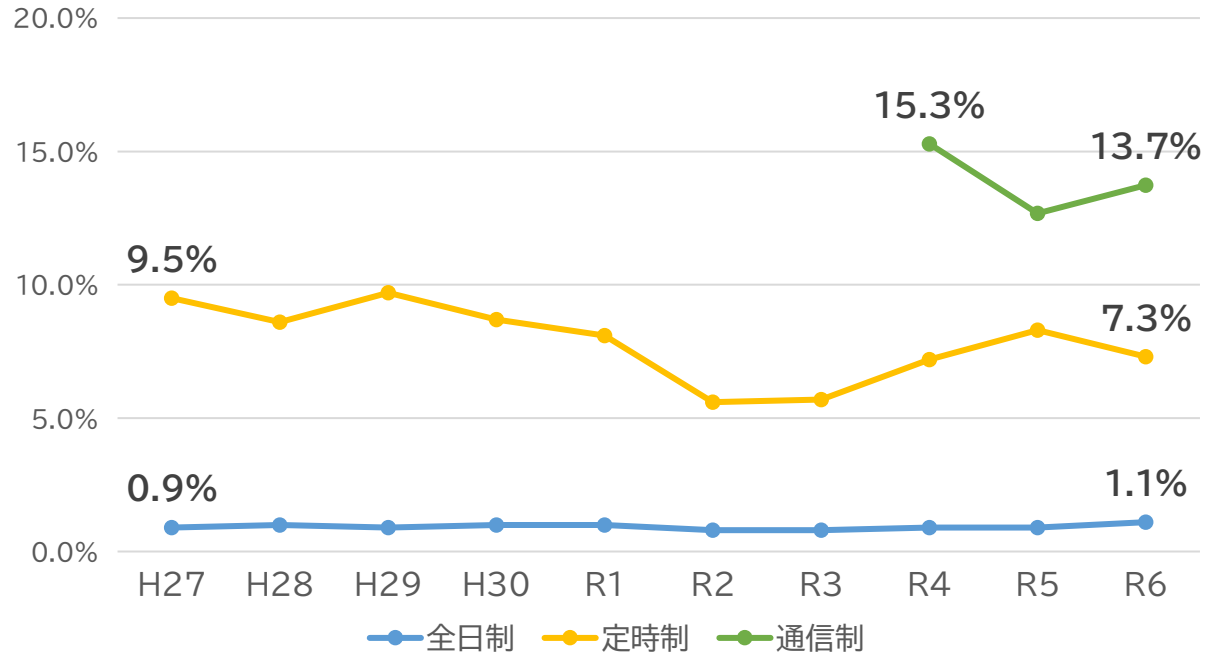
- □ **不登校出現率**は近年**上昇傾向**にあり、特に**定時制課程**で**高い水準**
- □ **中途退学率**も**定時制・通信制課程**で**全日制課程**を**上回って**おり、**生徒一人ひとり**の**状況**に応じた**学び**や**支援**の**充実**が必要
- □ **不登校**や**中途退学**の状況に加え、**生徒の学習状況、特性、生活状況、進路希望、希望する学び方**は**多様化**

不登校出現率（課程別）



中途退学率（課程別）

※ 通信制はR4から公開



「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」から作成

多様化する生徒一人ひとりの状況に応じて学び続けられる仕組みが必要

一人ひとりに
応じた学び・支援

都立高校における生徒一人ひとりに応じた柔軟な学びと支援の充実

学び直しのための基礎科目・少人数指導

○ エンカレッジスクールやチャレンジスクール等で**基礎的な科目を設置**

○ 習熟度別の**少人数指導**を通して、生徒の学習状況に合わせたきめ細かい指導を実施

外部人材を活用した生徒の学力向上支援事業（普通科高校等学習支援）

○ 外部人材を活用して生徒一人に対して指導できる時間を増やし、学力をつけ、生徒の学習意欲の向上を図る

○ 大学生等のTAによる学習支援を年間を通じて継続して実施

通信制高校の受入規模の拡大等

○ 応募状況等を踏まえ、通信制の**受入規模を拡大**

○ 従来は4月から開始していた通信制の入学者選抜について、**定員の一部**に係る選抜を2月に**前倒し**

都立学校「自立支援チーム」派遣事業の実施

○ 困難を抱える生徒を支援し、**社会的に自立できるようにする**ため、**就労や福祉の知識・技術を持つユースソーシャルワーカー**等で構成される「自立支援チーム」を派遣

○ 不登校生徒やヤングケアラーへの支援の中核として貢献

校内における別室での指導の推進

○ 不登校により教室の雰囲気に馴染めない生徒等に対して、**校内に居場所（別室）を設置**し、**支援員による学習指導や相談、デジタル学習教材の活用等により登校を支援**

○ 令和8年度はチャレンジスクールや昼夜間定時制高校など、**17校**で実施

○ 不登校だった生徒が校内別室に登校できるようになった、校内別室の利用生徒が新年度からは教室で授業を受けられた等の成果

「校内居場所カフェ」の設置

○ 都立高校に**校内居場所カフェ**を設置し、福祉や就労の専門的知識を持つ**ユースソーシャルワーカー（YSW）が日常の学校生活に関わり、生徒と信頼関係を構築**することで、生徒が抱える様々な課題・悩みを早期発見し、不登校・中途退学の未然防止につなげる

○ 現在、チャレンジスクールである小台橋高校及び立川緑高校に設置
⇒ **令和8年度中にさらに1校拡大予定**



六本木高校
（STEP広場）



校内居場所カフェ
（立川緑高校）

多様化・複雑化する背景と社会接続の必要性

□ 都立高校には、**多様な背景**や**特性**、**生活上の事情を有する生徒**が**在籍**
□ **全ての生徒**が**自らの強み**や可能性を見いだし、**卒業後の進学・就労・社会生活**につなげるため、**学校内の支援**に加え、地域・企業等との接点を段階的に築くことが必要

発達障害のある生徒

発達障害の可能性のある生徒の在籍率（都立高校）

都立高校にも一定数が在籍

全日制	2.5%
定時制	14.4%
合計	3.4%

令和6年2月「都立高校における発達障害教育の手引き　～誰一人取り残さない学校づくり～」から作成

発達障害の特性

■ 自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害といった特性が存在

■ **特性により直面する困難や行動傾向等が異なる**
（興味関心の偏り、不安定な心理状態、特定の能力への著しい困難　など）

特別な支援が必要な生徒

特別支援教育を受ける児童・生徒数

児童・生徒数（義務教育段階）は増加傾向

特別支援学級児童・生徒数（都内公立小・中学校）

平成27年度	令和7年度
9,344人	16,397人

通級児童・生徒数（都内公立小・中学校）

平成27年度	令和7年度
12,096人	38,779人

東京都教育委員会「公立学校統計調査報告書」から作成

特別支援学級からの進路

■ 都内公立中学校の特別支援学級を卒業した生徒は、特別支援学校高等部のほか、一定数は高等学校に進学

※ 令和7年3月卒業生は、進学者1,701人のうち、273人が都立高校に進学
（東京都教育委員会「公立学校統計調査報告書【進路状況調査編】」）

家庭環境等（ヤングケアラー）

世話をしている家族がいる生徒の在籍率

都立高校にも一定数が在籍

全日制高校2年生	4.1%
定時制高校2年生相当	8.5%
通信制高校生	11.0%

厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究（令和2年度）」から作成

世話をしているために、できていないこと

全日制高校2年生　※ 出典は同上

自分の時間が取れない	16.6%
宿題をする時間や勉強する時間が取れない	13.0%
友人と遊ぶことができない	11.4%

一人ひとりの強みや可能性を生かし、社会との関わりの中で将来につながる力を育むことが重要

社会との関わりを通じた自立・社会参画の促進

□ 多様な困難を抱える生徒も、それぞれに**強み**や**可能性**を有しており、**地域・社会**との**関わり**を通じてその力を伸ばし、地域で役割を担い活躍していくことが期待されており、卒業後の進学や就労、定着までを見据え、**高校段階**から**社会につながる力**を**育む**ことが喫緊の課題

⇒ **地域・企業等**との**関わり**や**体験**を通じ、**社会的自立につながる力**を**育む**ことが**重要**

地域・社会との関わりを通じたキャリア形成支援のイメージ

自分を知る

自己理解・進路形成

- 多様な人との関わりや体験を通じた、自らの強みや可能性の発見
- 社会生活や就労に必要な力の理解
- 進学・就職等の情報を踏まえた、自分に合った進路の検討

社会と関わり、役割を担う

社会参加・コミュニケーション

- 地域の多様な人材、大学等との交流
- 地域を題材とした探究・キャリア教育
- 他者と協働し、校内外で役割を担う経験
- コミュニケーション能力や社会性を育む

体験し、進路につなげる

体験的な学び・就労支援

- 企業や地域等と連携した職業体験・インターンシップ
- 生徒の状況・希望に応じた就労・進路支援
- 卒業後の進学・就労・社会生活への円滑な移行と定着を見据えた準備

現在の取組例

都立高校生の社会的・職業的自立支援教育プログラム事業

- 企業や大学、NPO 等と連携し、生徒が社会や職業について実感をもって理解しながら、将来、社会人・職業人として生活していくために必要な能力等を身に付けることができる参加体験型の教育プログラムを普通科高校を中心に実施

都立高校生のための職場体験　ジョブキャンプ

- 6つのテーマと、希望エリア・日程・業務・内容などから自分の興味ある体験プログラムを見つけ、2日間の職場体験に参加（夏期休業期間中・全学年対象）
- 職場体験に加え、参加する前に職場体験を行う企業のことを知ったり、基本的なビジネスマナーなどを学ぶ「事前研修」を行う計3日間のプログラム

生徒一人一人が自らの強みや可能性を生かし、進学・就職やその後の定着につながる力を習得

論　点

三つの共通テーマを踏まえた「今後の都立高校に求められる学びと役割」

三つの共通テーマを、「これからの社会を生きる力」と「誰一人取り残さない自立・社会参画」の二つのテーマから横断的に議論

テーマ①
これからの社会を生きる力

変化の激しい社会の中で、生徒一人一人が自ら問いを立て、多様な知を結び付けて新たな価値を生み出すために、都立高校の学びはどうあるべきか

議論の視点

01　文理を越えた幅広い知識・教養

02　探究・社会課題解決を通じた学び

03　大学・企業・地域等とつながる学び

テーマ②
誰一人取り残さない自立・社会参画

全ての生徒が、それぞれの状況にかかわらず自らの可能性を伸ばし、卒業後も社会の一員として自立・参画していくために、都立高校はどのような役割を果たすべきか

議論の視点

01　一人ひとりに応じた学び直し・支援

02　社会につながるキャリア教育

03　進学・就労、その後も見据えた支援